FOODLOSS CHALLENGE

トップページ

フードロス問題って？

フードロス・チャレンジ・プロジェクト

ニュース・イベント

リファレンス・リンク

参加するには

ロゴマークについて

フードロス・チャレンジ・プロジェクト

私たちは、「フードロス」をテーマとした、「マルチステークホルダー共創型プロジェクト」を開始します。
生活者、企業、行政、生産者、NPO、学識者、・・・さまざまなプレーヤーがお互いの知見やリソースを持ち寄って、「フードロス問題」の啓発と解決、社会変革を志す「実践型プロジェクト」。
本プロジェクトを通じて、参加する各プレーヤーも自らの行動を変えるヒントや新たなビジネス創出の示唆を得る。そのような場の構築を目指します。

発起人（参加順） 事務局 パートナー
プロジェクトの内容 プロジェクトのアプローチ
プロジェクトの特徴（大切にしたいこと） バックグラウンドにある思想や理論

発起人（参加順）

大軒恵美子（国連食糧農業機関（FAO）日本事務所 企画官）（発起人／代表）

NPO法人ハンガーフリーワールド
ハンガー・フリー・ワールドは、飢餓のない世界を創ることを目的に活動しているNPO法人です。日本に本部を置き、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダで活動しています。海外4ヵ国では地域の住民とともに、栄養改善や教育など、飢餓のない地域づくりを行っています。日本では、私たちの暮らしや食生活と世界の飢餓とのつながりを伝え、飢餓の終わりのために行動することを呼びかけています。

慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所ソーシャルデザインセンター
現在、我々は世界規模の大変革期に生きています。これにより従来の社会システムが機能不全を起こし、次々と新たな社会課題が噴出してきています。そのためこれからは、こうした社会課題を解決するための新たな社会システムを"実践"（プロジェクトベース）を通じてデザインするという発想が必要です。またこれからの課題は、誰か一人で解決できるものではありません。多様な担い手（マルチステークホルダー）が「協働」し、合意形成とソリューションの開発を一体的に進めることも求められています。「協働」のためのプラットフォームとして、2010年4月に立ち上げられたのが、「ソーシャルデザインセンター（SDC）」です。

事務局

博報堂bemo!チーム
博報堂bemo!チームは、企業や団体が、顧客や取引先、地域社会などの多様な関係者と"乗り合い型"のチームを結成し、自社や関連業界のこれからの社会的価値や事業モデルを共に構想し創出する手法「マルチステークホルダー乗り合い型価値創造プログラム『bemo（ベモ）』」を開発・提供している博報堂のコンサルタントチームです。
ソーシャルテーマに関する実践経験豊富なメンバーが、「競争から共創へ」を掲げ、新しい時代の価値創造を目的に活動しています。

パートナー

Save Food Initiative
フードロス・チャレンジ・プロジェクトは、国連食糧農業機関（FAO）とメッセ・デュッセルドルフが設立したSAVE FOOD initiativeのパートナー団体です。Save Food Initiativeは、世界の食料ロス・食料廃棄問題に取り組むグローバル・イニシアティブとして2011年に活動を開始し、研究機関や業界団体、市民社会など様々なプレーヤーと連携しています。

FOODLOSS CHALLENGE

トップページ

フードロス問題って？

フードロス・チャレンジ・プロジェクト

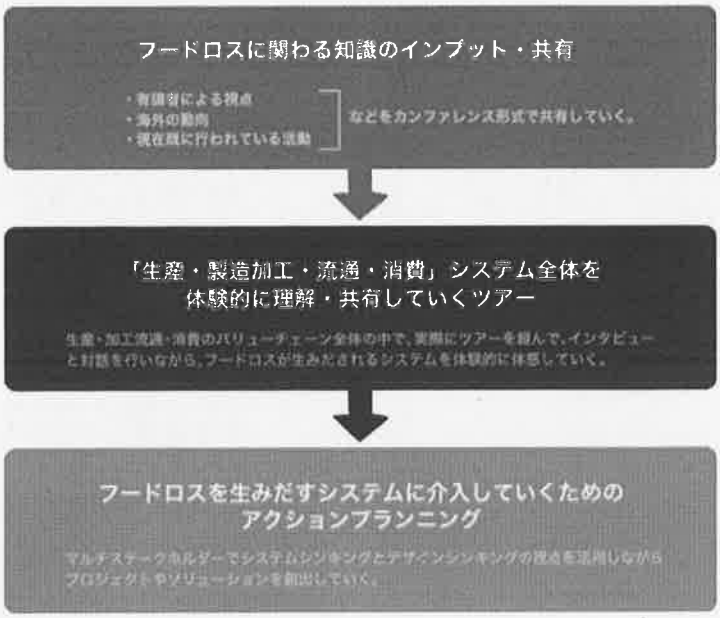
ニュース・イベント

リファレンス・リンク

参加するには

ロゴマークについて

プロジェクトの内容



プロジェクトのアプローチ

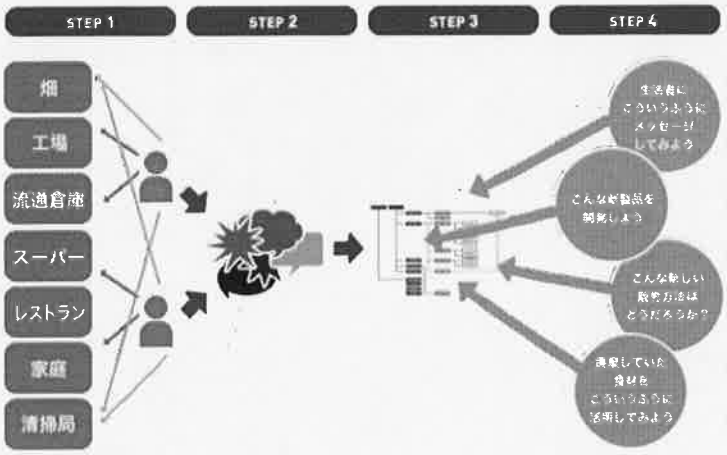
さまざまな参加者(マルチステークホルダー)がひとつのチームとなって、生産から製造・加工・流通・消費にいたるさまざまな現場を共に訪れ、見つめ直し、対話を重ねたうえで「フードロス」という問題の全体構造がどうなっているのかを探る。そんなアプローチを重視しています。

Step1 チームでビジョンや問題意識を共有し、個々の参加者だけではそれまで見えていなかった全体に視野を拡げる。

Step2 そこで得た現場知をベースにマルチステークホルダーで対話を重ねる。

Step3 体験と対話から得られた学びや発見、発想をシステム・シンキングなどの技術を用いながら、全体システムを一枚の構造図にまとめる。

Step4 全体の構造図をもとに、個々の主体に戻って取り組むアクションや多主体の連携で取り組むアクションを設計する。



プロジェクトの特徴（大切にしたいこと）

1）参加型・共創型アプローチでソーシャル・イノベーションを実現
・生活者・企業・行政・NPO・学識者等によるホールシステムアプローチ

FOODLOSS CHALLENGE

トップページ

フードロス問題って？

フードロス・チャレンジ・プロジェクト

ニュース・イベント

リファレンス・リンク

参加するには

ロゴマークについて

・システムシンキング → 起こっている事象の奥にある構造とメンタルモデルを見ていく
・デザインシンキング → 既存のメンタルモデルを外してソリューションをデザインする

2）社会課題のソリューションを事業・ビジネスと結び付ける
・社会的課題＝社会の深いニーズとしても捉える
・「システムの変革」は、新たな事業モデルが生まれる機会と考える

3）フードロスに関する最新の情報とネットワーク
・グローバル、国内の最新情報
・行政・NPO・シンクタンク・大学等のネットワーク

バックグラウンドにある思想や理論

「学習する組織」を始祖とする、様々なホールシステムアプローチの手法の開発
ピーター・センゲの「学習する組織」の思想については、それを継承する組織や人々によって、様々なダイアログ（対話）手法が開発されてきた。ワールドカフェ、オープンスペーステクノロジー、フューチャーサーチなどは、ホールシステムアプローチ（全体性を担保した場によって創発を生み出す手法）と呼ばれ、大規模な人数による深い探求の展開が可能なことから、地域や、組織の変革に活用されている。

U理論（Theory U）による最新の組織変容理論
MITのオットー・シャーマーが、社会的に大きな変容を起こしている人物や組織のケースを研究して、そこに起きていることを理論的に体系化したもの。「個人や組織にある価値判断を保留する態度から様々なことを見る → メンタルモデルや自分の捉われ、固執することを手放していく → 個や部分を越えた、全体にアクセスしたアクションを生み出す」というプロセスがモデル化された。

デザインシンキング
異なる専門性を持つチームメンバーによって、「思い込みを持たない観察 → 関係者による共有 → 発見された事実をあらたな文脈に形成していく統合 → 触れるカタチにして検証するためのプロトタイピング」を行い、イノベーションを生み出すデザインプロセス。

フューチャーセンター構想
マルチステークホルダーによるソーシャルイノベーションを、ハード（空間、場）とソフト（ファシリテーション、プロジェクトマネジメント、参加型対話の手法）の双方の観点に着目して、実践していくアプローチ。北欧でスタートし数々の実績を残しており、日本では、東京大学、慶応義塾大学などが、産官学連携の具体的な方法論として、展開を始めている。

プロセスワーク（プロセス指向心理学）による、臨床心理のアプローチの組織・地域・社会への適用
量子物理学やユング心理学の研究者であったアーノルド・ミンデルを創始者とした実践的かつ学際的なアプローチ。個人への臨床心理アプローチを組織や集団に応用展開し、地域づくり、紛争解決、組織開発などで実績をあげている。

© Foodloss Challenge Project